



## 「魔法の文房具」は眠っていませんか

今日は、学習の相棒ともいえる「文房具」のお話です。

賢くなるための文具には、実はある「決まり」があります。

プロのスポーツ選手が、自分の力を最大限に発揮する為に使う道具をきちんと見定めて選ぶように、学習時に使い続ける文具にも見定め方があります。

キーワードは、「簡素」と「使いやすさ」です。

文具の中で何よりも大切なのは、筆箱とその中身です。

毎日使うものですから、授業中の集中力に与える影響は計り知れません。

人間は情報の約8割を目から得ているため、学習に必要な情報は出来るだけカットできる環境を作ることが望ましいです。

そうした意味で、カッコいいキャラクターがちりばめられたものや、キラキラと光るアクセサリのような文具は、こと学習に使うものとしてはあまり適していません。(もちろん他の用途に使う場合は差し支えありません。)

無意識に使っているようであっても、人間は目に入るもの全てから情報を受け取り、脳で処理しているからです。

必然的に、学習で日常的に使う文具は、色や絵が少ない「簡素」なものが一番適しているということになります。

「使いやすさ」も然りです。

鉛筆は丸型であると転がってしまい、よく机から落ちます。

消しゴムは色つきであると、消しやすさが落ちます。

ミニ定規は長すぎると小回りが利かず、線を書くスピードが落ちます。

(折り曲げ式の定規もご家庭で使う分には問題ありませんが、学校ではできるだけシンプルなものが望ましいです。つつい遊んでしまうからです。)

また、「鉛筆」に対する「ボールペン・シャープン」については、質問があった際は次のように伝えています。

人間の指先は、「第二の脳」とも呼ばれるほど脳との結びつきが強く、多くの情報を送っています。

指先に力をほとんど入れる事なくサラサラ書けるボールペンやシャーペンより、ある程度筆圧を加えて書く鉛筆の方が、勉強した内容がより残りやすく覚えやすいのです。

また、鉛筆は薄く書いたり色を塗ったり微妙な調節がきき、しかも消す事ができます。ボールペンはそれができません。シャーペンは芯が折れやすく、授業中そっちに神経がいて勉強に集中しにくくなります。

ですから、鉛筆・赤鉛筆を使います。

他の文具も、質問があれば随時説明をする予定です。

もちろん、それらを無理にそろえる必要はありません。

今ある文具を大切に使うことは、それ以上に大切なことでもあります。

ですから教室では次のように伝えるようにしています。

無理に文房具を買う必要は全くありません。

今持っているものを大切に伝う事がまずは一番大切です。

ですが、お家に「絵や柄が少なく」「使いやすい」魔法の文具が眠っている場合は、学校ではそっちを使うようにするといいですね。

シンプルで簡素な作りの文具を、「魔法の文具」と呼んでいます。

学習における成長を加速的に支えてくれるからです。

というわけで改めて、毎日欠かす事なく使う「定番の文房具」のリストを載せておきます。

削った鉛筆5本程度（Bよりこいもの）

削った赤鉛筆（できれば2本）

消しゴム（無地で消えやすいもの）

ミニ定規（15cm程度のもの）

ネームペン（油性）

B5 下敷き（※字形を整える上で、一年間通じて使用します。）

一つ一つがとても大切なものですから、ご家庭でも声をかけて頂ければと思います。（文責：渡辺道治）

尚、毎週の持ち物やスケジュールは、保護者ポータルから「その他」→「配布資料」の中にある「週間スケジュール」に詳しく記載があります。

毎週金曜日に更新されていますので、もし週末に欠席された場合はそちらで翌週の持ち物をご確認下さい。